「贈る言葉」から

(引用ここから)「暮れなずむ町の光と影の中 去りゆくあなたへ 贈る言葉」(引用おわり)

ご存じ、名作、武田鉄矢氏の「贈る言葉」の冒頭部分です。

「なずむ」は漢字で書くと、「泥む」あるいは「滞む」と書き、物事が遅々として進まない様子を表しています。反意語は「捗る」になります。

春は別れの季節、と言われます。黄昏迫る街角、長い間お世話になった町と、親しかった友に別れを惜しむ青年。秋の日は、釣瓶落とし、などといわれますが、春の日は長く、暮れ泥みます。光と影が交錯し、道路には長い影が映し出され、去りゆく青年に、人々はいつまでも手を振り続けます。

この「泥む」は「暮れ泥む」と同時に、「別れ泥む」とも読み取れるのではないのでしょうか。このように解釈することによって、この歌の歌詞は益々深みを増してくるように思われます。日本語とは、何と美しく奥ゆかしい表現方法を備えた言語でしょうか。

若者言葉

しかし、今、若者たちを中心に、日本語の奥ゆかしさや、美しさとはかけ離れた言葉が使われつつあります。

言葉は時代とともに変化するもの

ですから、ら抜き言葉や、ビミョウ、普通に、などの言葉や、このラーメンやばい、などはほほえましい表現として容認できるのですが、一つだけ看過できない言葉があります。

それは、自分の意に反した時に吐き捨てるように発する「うざい」という言葉です。似た言葉に「きもい」もあります。

これらの言葉は「頭にきた」などの言葉とは本質的に違います。「頭にくる」は言葉を発した自分の責任をも表出していますが、「うざい」は全面的に相手を否定するだけでことを発した自己の責任を顧みようとしていないのです。「うざい」の一言で自己を正当化してしまっている、とも言えるのです。

現在の若者はキレイやすいとも言われますが、この「うざい」がそれを象徴する言葉ではないでしょうか。

「うざい」を一掃しよう

言葉が乱れると服装が乱れ、服装の乱れはやがて行動の乱れに繋がります。「うざい」「きもい」などの言葉は、反社会的な行動の引き金にもなりかねません。子どもの躰は、幼少の頃が大切です。子どもを認め、褒めることを念頭におきつつも、乱暴な言葉については厳に戒め、都留市から、「うざい」を一掃したいものです。

連載・青少年健全育成シリーズ 第239回

「言葉を大切に」

毎月第1日曜日は「家庭の日」

毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。

青少年育成都留市民会議編集委員

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています
(10,500部発行)ので、多くの方の目に触れます！

問合先：行政管理課 秘書広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額/枠	備考
裏面	カラー	20,000	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,000	2カ月掲載

掲載月は、①2・3月②4・5月③6・7月④8・9月
⑤10・11月⑥12・1月の6パターンとなります。
掲載状況につきましては、下記をご参考としてください。
また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広告掲載欄

広告掲載欄